

モデル事業名	体験・滞在型ツーリズム産業創造によるコミュニティ再生事業
活動団体名	下川町もてなし隊育成協議会
ホームページ	
所属／担当者名	事務局：財団法人下川町ふるさと開発振興公社 クラスタ推進部 武田浩喜
連絡先	01655-5-2770
活動地域	北海道上川郡下川町

● 活動地域の概要

- ・下川町は、北海道の北部に位置し、町の総面積644.20km²の約9割を森林が占め、農林業を基幹産業とする農山村地域であり、年間の最高気温は30℃を超え、最低気温は-30℃を下回ることもある寒暖差の激しい地域である。
- ・人口は、3,805人（平成21年3月1日）とピーク時の1/4まで減少しており、高齢化率も平成17年度国勢調査では、33.3%となっている。
- ・旭川空港から車で2時間。札幌からは高速自動車道を利用して3時間の距離にある。
- ・北海道の冬の風物詩であるアイスクャンドル発祥の地として冬の「しばれ」を活用した「アイスクャンドルミュージアム」の開催や日本最北の手延べ麺産地としての「うどん祭り」の開催、体験型の地域資源である「万里長城」の築城など、滞在・体験型ツーリズムを構成する新たな資源が構築されている。
- ・短期・長期の滞在が可能な受入施設である地域間交流施設が整備されている。
- ・本町においては、環境と社会に配慮し、経済的にも持続可能であるとの国際的な認証である「FSC森林認証」を北海道で初めて取得した豊富な森林資源を背景に「林業体験ツアー」の先駆的实施、林業体験と森林療法を組み合わせた「森のアロマツアー」を展開している。
- ・また、国が「低炭素社会」への転換を進めるため、先進的な取り組みにチャレンジする地域として「環境モデル都市」に認定されており、本町が長年にわたり取り組んできた循環型森林経営を基盤とした地域づくりが全国の農山村地域からモデルとして注目され、新たな交流が期待される状況である。



【位置図】



【体験型資源「万里長城」】



【地域間交流施設】

● 活動地域の課題

- ・下川町は、持続可能な森林経営を目的に森林資源の造成と適正な管理を実施し、循環型の林業経営を確立しており、基幹産業の振興による地域の活性化を図っているが、過疎化の進行している農山村地域において地域を担う人材の確保は重要な課題となっており、地域資源を活用した交流人口の増加や二地域居住、移住促進への取り組みは地域を活性化させるために重要な要素となっている。
- ・しかし、地域資源は豊富に存在するものの、交流産業を支える体験・滞在型のプログラムメニューが確立されておらず、また、都市への情報発信が不足していることから交流が進まない状況にある。
- ・さらに、下川町への訪問者を受け入れる人材や組織が育成されておらず、おもてなしの心を持った対応が困難な状況にある。
- ・このため、本事業を活用し、滞在・体験型ツーリズムの創造や都市住民へのPR活動の展開、受入体制の充実を図り、交流人口の増加によるリピーターの確保、二地域居住や移住を促進する活動を実施し、コミュニティビジネス創出による雇用確保や消費拡大による地域の活性化を目指すものである。

● 活動の内容

・平成21年度

①体験・滞在型プログラムの開発

NPO法人森の生活が行う林業体験ツアーや森のアロマツアーを核に他の地域資源を活用したプログラム開発を行う。また、森林バイオマスの先駆的な利活用、ゼロエミッションの木材加工など山村の産業観光としてのプログラムを開発し地域の再生を図る。

②体験プログラムプロモーション及びモニターツアーの実施事業

開発したプログラムを商品化し、首都圏等でのプロモーション活動を行い、モニターツアーを実施する。

③下川町もてなし隊育成研修

地域内の宿泊施設、体験メニュー提供事業者、飲食店、住民などで組織する受入を担う「もてなし隊」を設置し、地域でのおもてなしの心も持った対応が可能な人材を育成するための研修を実施する。

● 活動の成果

・平成21年度

- ・森林や森林資源を活用したプログラムを中心に新たなプログラムの開発を検討している。
- ・町内宿泊者へのアンケート調査の実施と分析を進め、今後の体験プログラム等の開発に活用する。
- ・プロモーション活動を実施し、9月には札幌からのモニターツアーを実施した。また、現在2回目のモニターツアーの募集を行っている。
- ・9月のモニターツアーに合わせて下川の食材を使用した「下川弁当」の試作と評価を実施した。
- ・都市部の子供会をターゲットにしたツアーの募集を企画したが、年度当初で子供会行事が決められており、途中での組み入れは困難なことから、来年度に向け提案することとしている。
- ・「もてなし隊」の活動が目に見える形で表れており、もてなし隊の拡充に向けた活動を展開している。
- ・町内探索マップを作製し、宿泊施設などに配布することで宿泊者の商店街への誘導策を講じた。



PR用チラシ等



サウンドマッピング



ルームスプレー作り

● 今後の課題及び展望

・課題

- ・モニターツアーを通じて下川町での交流体験が都市住民にとって魅力的であることが分かってきていることから、これらを継続して実施できる体制作りと受入体制の構築が急がれる。
- ・提供できる体験の素材は他にもあるが、提供する体制が確立されていないものも多いことから、他のメニューと連携させるなどその提供体制の構築が急がれる。
- ・森林、自然、環境などを背景とした体験メニューの提供が多く、それに興味を持つ客層が広く薄く分布しており、効果的な情報発信が求められている。
- ・滞在する町外者の要望としてその地域にしかない食や土産に関する期待が大きいことがアンケート調査でも分かっており、地域の食材を活用した季節感あふれる食事メニューや土産品の開発が必要である。
- ・町内および近郊への移動手段として、自動車は欠かせないが、現状では、レンタカー費用が高額であり、不満を示す滞在者が多い。

・展望

- ・現在の体験メニュー提供主体であるNPO法人森の生活を中心とした受入体制の整備やメニュー提供体制の構築を目指していくとともに、町内の小規模な体験メニュー提供者を連携させ、相乗効果を生みながら新たなコミュニティビジネスが創出できる体制を目指す。また、全町民「もてなし隊」に向けた活動を展開する。
- ・森林、自然、環境などに関心の高い客層へピンポイントで情報提供できる効果的なPR方法を検討する。
- ・札幌からのモニターツアー実施の結果、毎年開催したい意向も示していることから、都市の子供会組織など対象地域を絞った情報発信や企画提案を実施し、リピーターの確保に努める。
- ・飲食店や惣菜店などと連携し、地域色あふれるメニューの開発を進める。
- ・町内での移動手段確保のため、レンタサイクルの充実や格安レンタカー制度の創出を関係団体等に働きかける。

